

特別委員会からの報告

長崎駅周辺再整備 特別委員会	<p>◎昨年度に引き続き課題を整理し、その解決策などについて要望</p> <p>新幹線整備を契機として、国際観光文化都市長崎の玄関口にふさわしい長崎駅周辺の再整備の推進に寄与することを目的として調査を行いました。また、長崎駅前地区まちづくり協議会、JR九州及び各交通関係機関からの説明や意見なども参考にして議論を行いました。</p> <p>その結果、①バス停の整備について、駅を利用する観光客や市民にとってわかりやすく、安全でスムーズに乗りおりができ、バス、タクシー、一般車両などの集中による混雑や、交通渋滞が発生しないようにする必要があるため、②国道202号の拡幅もあわせて検討すること、③駅前商店街の振興や日本二十六聖人殉教地へ観光客を誘導するための歩行者動線の整備について、長崎駅前地区まちづくり協議会等と連携を図りながら早急に検討すること、④長崎中央郵便局の移転先を早急に確保することにより都市計画道路大黒町恵美須町線の整備を推進することとあわせ、旭大橋の低床化について引き続き県へ働きかけること、⑤JR九州の開発計画やスケジュールを少しでも早く示してもらうため、JR九州へ積極的に働きかけること、また、関係機関等と十分な連携を図り、互いに情報を共有し、相互理解を深めながら計画的に事業を推進すること、⑥全線フル規格での新幹線早期開業について、地元自治体として国へ強く働きかけることの5つの点については、特に重要な課題であることから、強く要望しました。</p>
観光客受入対策 特別委員会	<p>◎国内外の観光客から選ばれる都市となるため、長崎ならではの観光資源創出を要望</p> <p>国内外の観光客の増加が予想される中、観光客の満足度を向上させるための現状と課題を把握し、観光客受入対策に係る施策の推進に寄与するため、観光立国ショーケースの選定に伴う取り組みや本市独自の歴史や文化、夜景などを組み合わせた魅力創出のための方策について、調査を行いました。</p> <p>その結果、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた観光立国ショーケースの取り組みについて、長崎県などと連携をとりながら関連事業を進めるとともに、多くの外国人観光客に選ばれる国際観光都市「長崎」の実現に向け、観光地域づくりのかじ取り役となる長崎市版DMOの確立、観光資源の磨き上げ、ストレスフリーの環境整備及び海外への情報発信などに着実に取り組むことを要望しました。</p> <p>また、長崎市においては、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」についても平成30年の世界文化遺産登録が期待されており、クルーズ船の入港も引き続き増加が見込まれるなど、特に海外からの観光客の増加が期待されることから、観光立国ショーケースに選定されたこの機会を生かし、日本における観光のトップランナーとなるため、引き続き、長崎市独自の歴史や文化、世界遺産や夜景観光などを組み合わせた観光客受入対策を推進するとともに、長崎市ならではの強みを持った観光資源を創出していくよう強く要望しました。</p>
定住人口対策 特別委員会	<p>◎住み続けたい、移り住みたいと思われるまちづくりに引き続き取り組むことを要望</p> <p>長崎市が直面している、若年層を中心とした市外への人口流出や少子化に伴う人口減少は、今後の市政の推進において重要な問題となります。</p> <p>そのため、人口減少やそれに伴う地域経済の縮小、若者の雇用の受け皿不足等の諸問題を克服し、長崎市が将来にわたって活力あるまちであり続けるため、人口減少の影響とその課題及び定住人口の減少に歯どめをかけるための諸方策について調査を行いました。</p> <p>その結果、所得の向上を図り、若い世代がこのまちで就職し、結婚し、子どもを産み育て、暮らしていきたいと思えるような魅力あるまちづくりを進めること、特に、従業者数の多い観光や医療・福祉分野における市独自の支援策による給与水準の向上及び従業者数の減少が顕著な農林水産業の分野における施策の推進に行政が率先して取り組むことを要望しました。</p> <p>また、若い世代の地元企業への就職促進についても、市の強いリーダーシップのもとに進めることを要望しました。</p> <p>さらに、医療費助成制度の充実を図るなど、子育て世代の経済的負担の軽減につながる方策について検討を進めることや、生活の基盤となる移住希望者向けの住まいの充実を早急に図るため、活用可能空き家調査については速やかに具体的な目標を立て、民間への委託を含めた調査方法の再検討を行い、スピード感を持って進めることを要望しました。</p>